

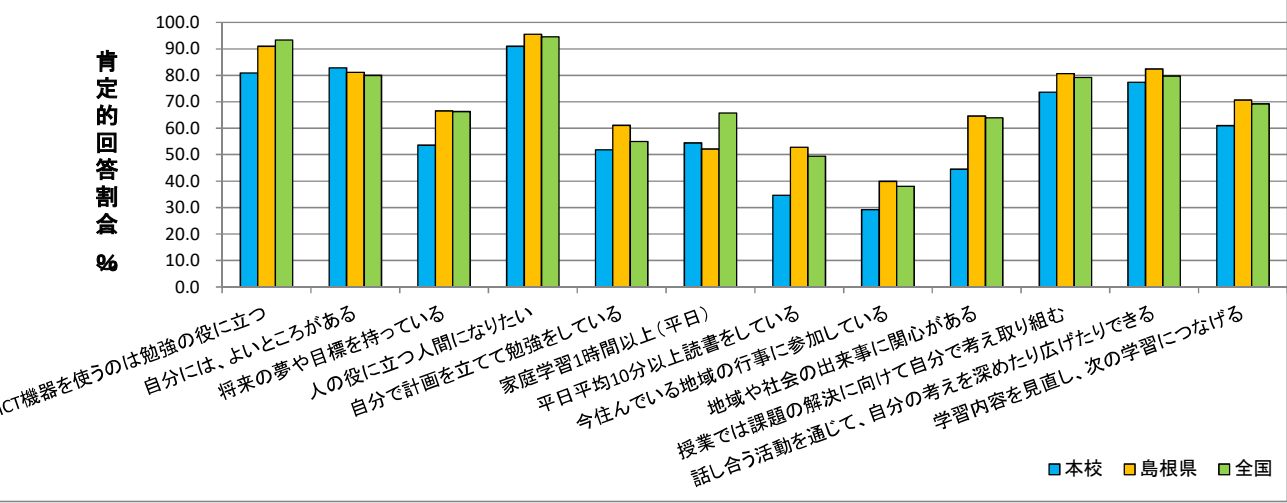
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○目的や場面に応じて質問する内容を検討することができる生徒が多い。 ●文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして自分の考えを述べるのが苦手な生徒が多い。	・さまざまな文章を読み、文章の構成や表現の効果について考える機会を増やす。 ・スピーチや作文などで自分の意見を伝える際、根拠と共に表現する指導をする。
数学	●「数と式」領域において、結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができること。 ●「関数」領域において、事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができること。	・授業の中で単純に問題を解いて終わるだけでなく、なぜそうなったのかを考える場面や説明する場面を意図的に設定していく。 ・学年相応の課題処理を学ばせながら、スパイラルな学びを通して課題を解決する系統性のある指導をする。
英語	●日常的な話題について、状況などを判断しながらまとまりのある「長い文章」を聞いたり読んだりするとき、情報を整理し内容をとらえたり、必要な情報を得たりすること。 ●知らない単語を聞いたり読んだりするとき、前後の内容から意味を推察すること。	・学習者用デジタル教科書を活用して、授業や家庭学習において英語の音声に触れる機会を増やす。 ・授業で新しい題材に初めて取り組むときに、学習していない単語があっても聞いたり読んだりして、内容をとらえる活動を継続して行う。

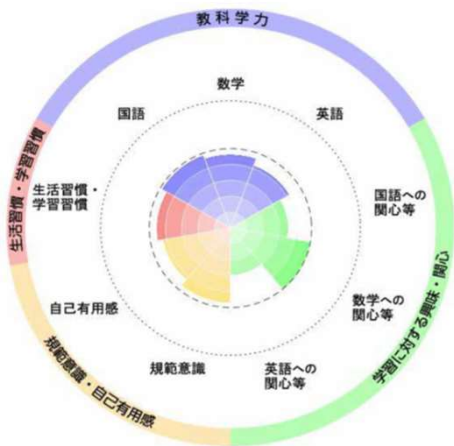
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○教職員との関係が良好であり、日々の関わりを通して生徒が困った時に相談しやすい雰囲気醸成されている。 ●自己肯定感は比較的高いが、地域や人と関わること、また、探究心をもって学びを深めたりすることなど、自分の世界を広げることに消極的である。	・各教科、領域での学習において、ICTを効果的に活用して生徒各自の意見や考えを交換する場の設定を増やす。 ・地域の「ひと・もの・こと」を生かした学習の機会を増やす。 ・図書館を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・「個別最適な学び」の実現にむけて、TTの活用を工夫したり、タブレットドリルを効果的に用いたりする。
・「協働的な学び」の時間を増やし「主体的・対話的で深い学び」が定着するよう、ICT(意見集約型のソフト)を系統的・計画的に活用する。

【受検者数】

100 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。